



その後も、理左衛門^{りざえもん}は新しい田^{ひら}を開くことにつとめ、26の村々に新しい田を開き、40本あまりの水^{すいろ}路を切り開いて水を引きました。

また、生活が苦しくて越後^{えちご}（今の新潟^{にいがたけん}）や米沢^{よねざわ}の方に逃げていた人々を100人以上も呼び返^{かえ}して、米^{こめ}つくりの仕事^{しごと}にあたらせました。

新しい田を開く仕事^{とちゆう}の途中、お金^{おかね}がふそくしたため、会津藩^{あいづはん}

から借^かりたという記録^{きろく}ものこっています。

郷頭^{ごうがしら}をやめたあとも新しい田を開くために努力^{どりよく}しましたが、ついには病^{びようき}気になり、1667年（寛文^{かんぶん}7年）8月52歳^{さい}でこの世^よを去^さりました。

理左衛門が新しく切り開いたと思われる吉田^{よしか}付近^{ふきん}の田からは、毎年^{まいとし}たくさんの米^{こめ}がとれるようになりました。

しかし、新編^{しんべん}会津風土記^{あいづふどき}によれば吉田^{よしか}新田^{しんてん}を切り開いた人^{ひと}は、宮城^{みやぎ}や左衛門^{ざえもん}であるという記録^{きろく}もありくわしいことはよくわかっていません。

いずれにしても、わたしたちの郷土^{きょうど}の発展^{はつぜん}に尽くした先人^{せんじん}がたくさんいたことを誇^ほりにしたいものです。



▲吉田付近の田（奥川）